

津田議員 それでは、通告に従いまして「役場職員の人手不足の状況と課題、今後の対応方針」について質問させていただきます。よろしく申し上げます。他の自治体と同様、牟岐町も多くの課題を抱えていますが、それら課題の解決と将来の活性化のためには、役場職員のリーダーシップが欠かせません。町民からの期待と要求もかなり大きいものを感じます。しかし、庁舎移転やゴミ処理施設建て替えなどの大型案件はもとより、保健・医療・福祉・衛生・産業振興・教育・防災・インフラ整備・土地の調査開発・コロナ対策やマイナ保険証への対応等、国から降りてくる仕事など、役場が抱える業務は非常に多岐にわたっており、職員の方々はそれらの重要な事務を一人で複数担当されている状況で、繁忙期には人がほとんど事務室にいない様子を見かけることもあり、現状、役場の人員は必要とされる人数にかなり足りていないように感じます。もちろん財政的な制約があり、人員を増やすことが難しいことは重々承知していますが、難しい課題を解決していく根本的な力は組織を構成する人の知恵と協力だと考えます。知恵を出し合ったり互いに協力する、研修を受けてスキルアップしたり新しい業務を勉強して覚えていく。これらを行うためには役場職員に余力、余裕が必要です。しかし、職員の方々は目の前の業務に忙殺されているのではないかと、時間的・精神的な余裕がないのではないかと、とても憂慮しています。そこでまず、現在の人員不足の状況と今後の人員計画について、どのようなご認識かを伺います。次に、担当ごとに業務内容が異なること、また、時間によっても負担の重さは大きく変わることから、業務負荷の軽重は人数だけでは計れません。そこで、負担の重い業務にはどのようなものがあるのかをお伺いします。全国的な少子化によって、今後も職員数は減少していく可能性は高く、日本総合研究所が2021年4月に出した「地方公務員は足りているか」というレポートによると、2018年度の充足率を100%とした場合、2030年には約80%、2045年には約65%しか必要数に対して人員がいなくなるという推計がありました。これはあくまで、現在の業務範囲・業務効率のままで推計した結果ですので、今後の対応で克服することができると考えますが、スピード感を持って進めていくことが重要です。そこで最後に、これまでも様々な取り組みをされてきているかと思いますが、現在、牟岐町役場がどのように業務効率化に取り組んでいるか、そして、今後どのように進めていくお考えなのかお伺いします。

喜田議長 柘富町長。

(柘富町長 登壇)

柘富町長 津田議員の「役場職員の人手不足の状況と課題、今後の対応方針」についてのご質問についてお答えします。現在の人員不足状況と今後の人員計画についてどのような考えであるのかとのご質問ですが、現在、職員数は正規職員が78名、会計年度任用職員が43名、合計121名で、内、派遣が2名、休職者が2名います。正規職員数につきましては、類似団体との単純値による比較では20名以上少ない状況となっておりますが、将来的な人口減少も加味した上で作成している定員管理計画の目標数値78名に対しては適切な職員数となっております。今後は、退職者の状況を加味しながら計画的に補充を行うとともに、住民サービスの向上と業務の効率化を図りつつ、住民からの理解が得られる適切な定員管理を実施してまいります。次に、業務負荷の課題と対応についてお答えします。「負担の重い業務はどのようなものがあるのか」とのご質問ですが、大きく見ると通常業務より新規業務や急に追加された業務があると、負担が大きいのではないかと思います。他の自治体と比べると行政規模が小さいにも関わらず行政事務の量はかわらないため、一人がたくさんの担当を掛け持ちし、事務量が多いのが現状です。負担軽減するためには、課内での一人一人の事務量のバランスを保つこと、また知恵と協力が大切であると私も考えており、外部委託が可能な業務については検討していく必要があると考えています。最後に、業務の効率化に関するご質問についてお答えします。現在は業務のシステム化を図り、ソフトウェア型のロボットを利用して、定型業務やルーチンワークを自動化してくれるRPAを導入し、業務の効率化を行っています。また今後は、議会へのタブレットの導入や内部事務システムの導入によりペーパーレス化を図ることで、ワークフローや文書管理・備品管理などの業務効率化を進めてまいります。以上です。よろしく申し上げます。

喜田議長 津田議員。

津田議員 ありがとうございます。他の自治体と比べると、通常必要とされる人数より

20名足りず、しかし、目標数値と比べては目標どおりというお答えだったかと思いません。総務省からそういう管理の要請がきているようで、そのとおり管理されているのは、しっかり対応されているのだと思いますが、やはり職員の負担、重さというのは、とても重たいように感じました。一番、唯一簡単に解決できる問題ではないと思っていますけど、やはり業務の効率化というのが現状有効な方法なのではないかと思っています。とくに今回導入されるRPAのソフトを導入することで、4,500万円も使うものですので、大きく業務が変わってくれることを祈るばかりですけど、私もシステムエンジニアをしまして、こういった話はよく聞いたことがあるのですが、やはり新しいシステムを導入しても、それを使いこなせないと、どうしても効率化に結び付きません。例えば、よくあるパターンは、9割方の人が使っているのに一人の人が紙で報告を求めるとか、メール等が使えないとか、動画のリモートの会ができないとか、そういったことがあると、せっかくシステムを導入してもほぼ役に立たない、業務の改善につながらないということがとてもありましたので、牟岐町の役場では、そういうことのないように、みんながしっかりと使えるように研修や勉強を進めていただきたいと思います。もし何か問題がありましたら、私もできる限りでご協力したいと思いますので、困ったことなどあれば、どんどん役場の皆さんからも言っていただきたいと思います。ありがとうございました。